

令和5年度 生産者手取り最大化実践メニューのご紹介

JAとJA全農にいがたでは、担い手の皆様の経営改善と手取り最大化をめざし、様々な実践メニューをご提案しています。

実践メニューは、物財費削減・労働費削減・生産性向上の3つに分類した全37メニューがあります。

令和4年度は、全36メニューから1JA平均19メニューに取り組みいただきました。本年度についても内容を確認いただき、引き続き実践いただくようお願いします。

なお各メニューの詳細は、[JA全農にいがたHP](#) > [営農・組合員](#) > [令和5年度生産者手取り最大化実践メニュー](#) をご覧ください。

(詳しくは、お近くのJAにお問い合わせください)

令和5年度 生産者手取り最大化実践メニュー一覧

(※):新規追加

項番	物財費削減	項番	労働費低減	項番	生産性向上
1. 肥料・農業費の低減		1. 育苗・直播技術		1. 収量品質向上・需要確保	
1	水稲用JA県下統一肥料の活用	9	水稲高密度播種の導入	21	土づくり肥料の施用
2	一般高度化成肥料(銘柄集約)の活用	10	水稲直播栽培(鉄コーティング等)の導入	22	㊦オーダーメイドBB肥料の活用
3	肥料・農業の直送対策の活用	2. 施肥の省力化		23	指定混合肥料(堆肥入り)の活用
4	㊦フレコン規格肥料の取り扱い	11	肥効調節型肥料入り銘柄の活用	24	うるち米契約栽培の取り組み
5	担い手直送規格農業の活用	12	苗箱まかせ㊦(水稲育苗箱全量施肥)の活用	25	大豆の生産性向上
6	施肥コスト低減技術・資材の活用	13	水稲流し込み施肥の導入	26	大豆の生産拡大
2. 機械費の低減		14	ドローンによる水稲施肥	2. 園芸の新規導入・拡大	
7	「共同購入」による農業機械のコスト低減	3. 除草の省力化		27	園芸品目の生産拡大
8	園芸振興用貸出し農業機械の活用	15	拡散性粒剤による防除	28	加工・業務用向け野菜の生産
		16	茎葉処理除草剤の少量散布(5ℓ/10a)による防除(※)	29	養液土耕栽培システムの導入
		4. 園芸の省力化		3. 営農排(かん)水の改善	
		17	野菜収穫機の導入	30	地下水位制御システム「FOEAS」の導入
		18	生分解性マルチの導入	31	農業機械の活用による「土づくり」
		5. 水管理の省力化		4. ICT等による生産の効率化	
		19	自動給排水装置の導入	32	営農管理システム(Z-GIS)の導入
		6. 米の出荷作業の軽減		33	営農計画策定支援システム(Z-BFM)の活用
		20	米のフレコン出荷の拡大	34	栽培管理支援システム(ザルビオ)の導入
				35	ドローンの活用
				36	GPSを活用した農業機械の導入
				5. その他	
				37	マッチングアプリによる労働力確保支援(※)

(担い手・営農支援部 担い手・営農支援課)

※掲載内容の無断使用・転載を禁じます。